

平成27年度

大阪医科大学医師会総会議事録

大阪医科大学附属病院中央検査部／書記 村尾 仁

日時：平成27年6月22日（月）

18：00～19：00

場所：大阪医科大学第2会議室（総合研究棟12階）

出席：米田会長、森脇副会長、梶本理事、上杉理事、萩森理事、石田評議員、内山評議員、岡田評議員、根尾評議員、上田評議員、大道評議員、寺崎評議員、臼田会計、芦田会員（敬称略）

14名出席、268名委任状 計282名
会員数492の過半数247を超えている
ので、会議成立

議長：森脇副会長

会長挨拶：

日頃から医師会運営にご協力いただきありがとうございます。大学医師会は規模も大きく、まとまった活動を行い、さまざまな事業を展開してきました。北摂にある近隣の市医師会は法人ですが、大学医師会は大学医師会らしく活動をしていきたいと思えます。これからも、ぜひご協力いただきますようお願いいたします。

1. 平成26年度事業報告（米田会長）

1) 大阪医科大学医師会の充実

会員数が489名（平成26年5月31日現在）であった。研修医の入職時のオリエンテーションにおいて、大阪府医師会西本理事が日本医師会、大阪府医師会、大阪医科大学

医師会の役割の違いや、医賠償保険等について説明し、勧誘を行った。大阪府医師会主催の新研修医ウェルカムパーティーが開催されたが、大学のオリエンテーションと重なっており、参加が難しかった。

日本医師会生涯研修制度は、医師免許生涯交付のために医師が自主的にしっかり研修していることを示す大切な制度である。研修会参加時には、必ず大阪府医師会生涯研修チケットを提出するよう、大阪府医師会からも強く求められている。

医賠償保険への加入は個人としても団体としても大事である。日本医師会医賠償保険は、医療専門の弁護士を有し、メリットも大きいので、日本医師会への加入を促す。予定していた加入状況調査ができなかったため、27年度に引き続き行う。

2) 大阪医科大学医師会の学術活動

『大阪医科大学医師会報』を2号発行した。会報を発行している大学医師会は数少なく、当医師会の特徴でもあるので続けていきたい。第42号(9月15日発行)は「医療安全からみた電子カルテ導入」を、第43号(3月15日発行)では「大学病院における認知症患者への対応を考える」を特集として掲載した。

学会等助成は、平成25年度に選考した平成26年度分5学会に各10万円計50万円を助成し、6月9日に開催した大阪医科大学医師会総会内で受賞式を行った。10月に平成27年度分の公募を行い、12月に選考を行い、

5学会に助成することを決定した。

北摂四医師会医学会総会が、6月7日(土)に茨木市こども健康センターで、特別講演1題、一般演題9題の発表があった。北摂四医師会分科会のうち「ほくせつフットケアカンファレンス」が閉会となった。休会中の分科会もあるが、活動中の各分科会は研究会を開催した。産業医講習会は1回開催した。

大阪府医師会勤務医部会第2ブロックは、ブロック委員会を4回開催し、積極的に活動した。北摂四医師会医学会総会一般演題のなかから優秀演題賞を1題選出して5万円ずつ賞金を授与した。1月10日に開催した第2ブロック研修会では、医療安全についてディスカッションを行った。

3) 日本医師会・大阪府医師会・在阪5大学医師会・地域医師会との連携強化

日本医師会の代議員会に米田会長が参加した。大阪府医師会の郡市区等医師会長協議会や代議員会、各種部会や委員会に積極的に参加した。12月4日に「在阪5大学医師会ならびに2行政医師会役員と勤務医部会役員との懇談会」が開催され、当医師会から4名の理事が出席し、新研修医制度について、意見交換を行った。大学全体として進めていくのは難しく、大学ごと学会ごとと違いがある。眼科と麻酔科が進んでいる印象を受けた。全国大学医師会連絡協議会は開催されなかった。

2. 平成26年度会計報告・会計監査報告 (臼田会計)

全会一致で承認された。

3. 平成27年度事業計画(米田会長)

特に新たなことは考えておらず、昨年度の事業を継続的に進めていく。

1) 大阪医科大学医師会の充実

会員数が493名(平成27年5月31日現在)となった。3月31日に開催された研修医の入職時のオリエンテーションにおいて、大阪府医師会西本理事が医師会の役割や医賠償責任保険等について説明し、勧誘を行った。医師会に加入するメリットとして、医師年金・医師協カード・保険・ローンについても説明した。今年度は、医賠償責任加入状況調査を実施する。

2) 大阪医科大学医師会の学術活動

例年通り、『大阪医科大学医師会報』(年2回発行)、会報44号は特集として「大阪医科大学における専門医制度について」を掲載する予定である。会報45号からは冊子体を発行せず、オンラインジャーナル版のみとすることが決まった。カラーで掲載したり動画を掲載したりでき、記事の検索が容易になる。加えて印刷費や郵送費等の経費が削減できる。大阪医科大学医師会として会費を徴収していないので、医師会として紙媒体で発刊する義務はないと考える。会報ができ上がったことを各会員に連絡する手段としては、電子メールが一番有効である。しかし、現在、大学外で勤務している会員のなかにはメールアドレスを把握できていない会員もいる。今後、医局から情報提供してもらえるように本人に承諾をもらう準備を進める。

学会等助成金は、昨年度選考した5学会に各10万円計50万円を助成し、平成28年度助成公募を10月1日より1ヵ月間行う。

北摂四医師会医学会は、6月8日(土)に第24回医学会総会が高槻市医師会の当番で実施された。第25回となる来年度は大阪医科大学が当番になる。各分科会は、年1回以上研究会を行う。大阪府医師会勤務医部会第2ブロックでは、昨年度に引き続き積極的に活動を進める。北摂四医師会医学会総

会一般演題優秀演題賞1題を選考し、各5万円の褒賞を出す。また、第2ブロック研修会を1月9日(土)に昨年度実現しなかった医療安全の講演を、医師で弁護士の演者に再度依頼する予定である。今年度より大阪府医師会勤務医部会第2ブロック事務局を会計も含め全面的に高槻市医師会に移行する。

3) 在阪5大学医師会・地域医師会との連携強化

在阪5大学医師会との懇談会への参加はもとより、高槻市・茨木市・摂津市医師会との連携を深めていく。例年通り、日本医師会代議員会、大阪府医師会郡市区等医師会長協議会、大阪府医師会代議員会、大阪

府医師会各種委員会、ならびに全国大学医師会連絡協議会等にも参加する。

4. 平成27年度予算案(臼田会計)

臼田会計より前年度と同じ事業を展開するための予算案の提示があった。単年度で見ると100万円程度赤字となる。今年度は、会報の全面Web化を行うことで、昨年度より赤字が減るものと思われる。

今年度予算案は、全会一致で承認された。

5. 平成27年度学会等助成贈呈式

採択された5題について10万円の目録を贈呈した。

以上